

公益社団法人

シャンティ国際ボランティア会



【おおきなかぶ】福音館書店、写真：川端 嘉文

活動紹介

40年間で途上国に1,400を超える学校や図書館を設立

子どもたちが安心して学べる環境をつくるため、シャンティは1981年の設立当時から本に触れる文化づくりと、教育の質の向上を目指してきた。日本国内においても多様なバックグラウンドを持つ子どもたちが同じ時を過ごし、気持ちを共有することで、お互いを尊重し自己肯定感を育むことが大切だと考え、そのための「居場所づくり」を現在も積極的に進めている。

紛争が続く地域や少数民族が暮らす地域では、学校に通えず絵本さえ見たことがない子どもが多く、現地の言葉で書かれた本も足りない。そこで、シャンティはそうした地域の人々が読める絵本や教材を、2020年末までに521タイトル出版してきた。また、同じく2020年末までに教育政策を担う途上国の行政職員、図書館員、教員など3万8,000人に対して研修を行うとともに、424校の学校と1,003もの図書館・図書室を設置した。

団体DATA

1981年に日本で設立。「本を通した学びが生きる力を育み、やがて一人一人の未来を開く力になる」と信じ、アジアの7カ国8地域に専門性を持ったスタッフが滞在し、子どもたちへの教育文化支援、緊急人道支援を行う。

活動分野



これらの図書館・図書室を利用した人たちは、累計で1,600万人を超える。

シャンティは子どもたちが安全に学べる場所を住民と一緒につくることと、学びたいと願うすべての人が参加しやすい活動を提案・実践することを、常に念頭に置いている。学校や図書館を設置するだけでなく、移動図書館を運営したり、読書推進イベントとして「おはなし会」などを行ったりして、多様な世代の参加に努めてきた。

2020年からは、日本で暮らす外国にルーツを持つ子どもたちの支援を開始。さらに新型コロナウイルス感染症の予防にも注力し、海外では衛生用品や食料の配布、オンライン用の読み聞かせ動画の制作などを行った。日本でもオンライン用の学習動画とワークシートを作成し、子どもの自宅学習を支援している。